

横浜市インフルエンザ流行情報 1号

横浜市健康福祉局健康安全課 / 横浜市衛生研究所

《トピックス》

横浜市内でインフルエンザの報告が増加しています。

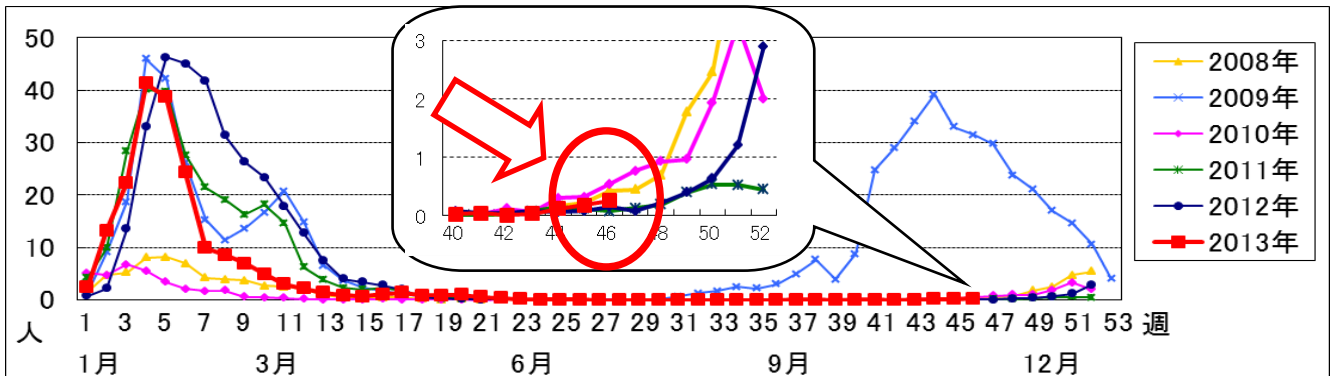
【概況】

横浜市全体では、2013年第46週(11月11~17日)の定点^{※1}あたりの患者報告数は0.26と、まだ流行開始の目安となる1.00を大きく下回っていますが、区別では、**港北区0.77**、**緑区0.67**などと1.00に近づいている区もあります。

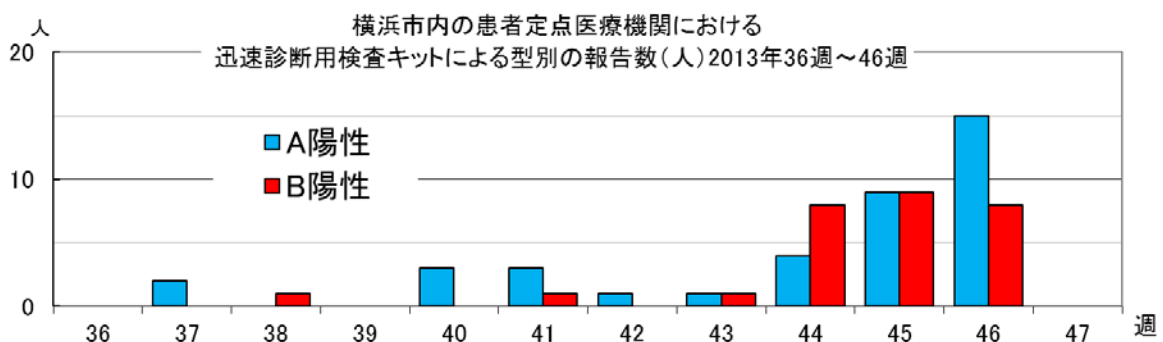
第46週の迅速キットの結果ではA型65.2%、B型34.8%と、**シーズンはじめにしてはB型の割合が多くなっています**。全国のウイルス検出状況^{※2}では、AH3亜型(A香港型)を中心に、AH1pdm09、B型(ビクトリア系統)、B型(山形系統)が混在しています。今後、インフルエンザの本格的な流行が予想されるため、予防や早期受診などの対策^{※3}が重要です。

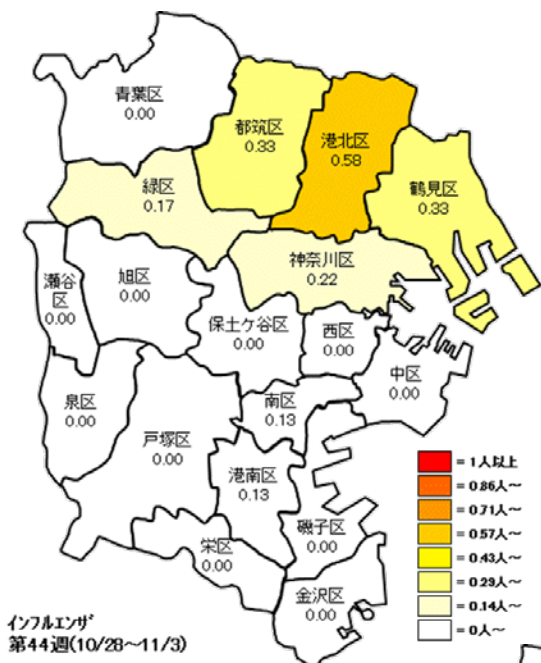
※1 定点・・定点とは、定期的にインフルエンザ患者発生状況を報告していただいている医療機関(市内152か所)のことで、そこから報告された患者数の平均値が定点あたりの患者報告数です。
 ※2 [インフルエンザウイルス分離・検出速報\(国立感染症研究所\)](#)
 ※3 [インフルエンザ予防チラシ\(横浜市\)](#)

1 市内流行状況:市全体の定点あたりの患者報告数は流行開始の目安となる1.00人未満ですが、第44週0.12、第45週0.18、第46週0.26と少しずつ増加しています。



2 迅速キット結果: 第45週A型50.0%、B型50.0%、第46週A型65.2%、B型34.8%と、シーズンはじめにしてはB型の割合が多くなっています。





地図で表した直近3週間の
 区別流行状況
 (塗り分けの数字は
 定点あたり報告数)

